

新・松山聖陵高校 立案書



面積表

| | |
|------|---------|
| 敷地面積 | 30,022㎡ |
| 建築面積 | 8,705㎡ |
| 延べ面積 | 14,027㎡ |
| 建ぺい率 | 29.00% |
| 容積率 | 47.72% |

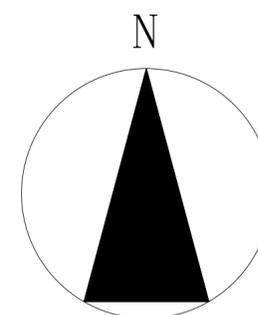
3Dパース



付近見取り図



松山市久万の台



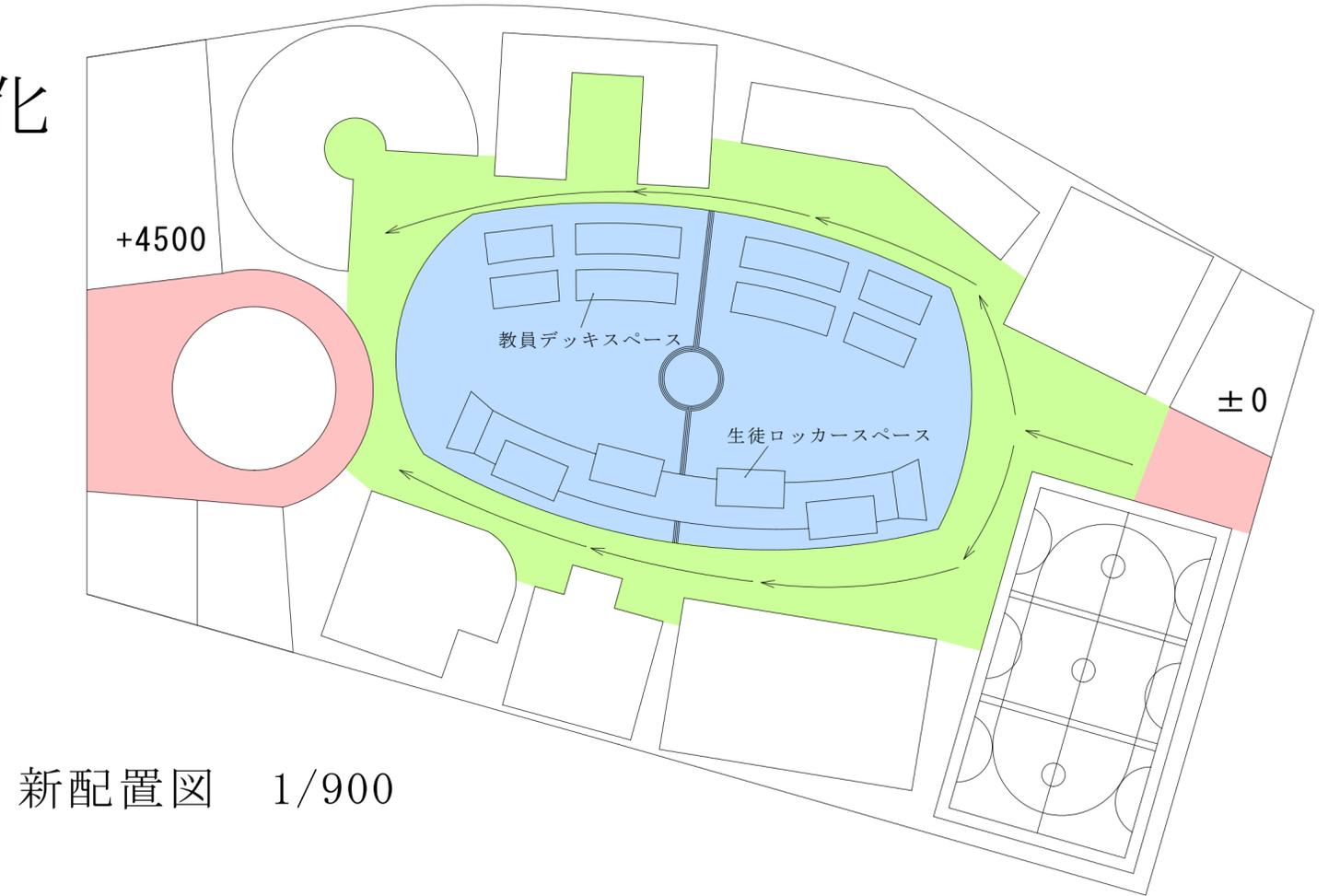
設計主旨

本計画では高校という環境における「学び」と「時間の
使われ方」を再び考えることを目的としている。従来の
学校空間では、授業のための教室とそれ以外の場所が明確に分けられ、学びは
特定の時間と場所に限定されていた。本計画ではその環境を緩め学習が教室の
内外へと滲みだすような空間構成を目指している。専門教室や共用スペース、
屋外空間を連続的に配置することで生徒は授業の合間や放課後においても自然
と学習や、活動を継続できる環境となる。また、このような構成にすることで
その時々に応じて居場所を変えられることが高校生活の質を高めると考えた。
本計画は「学び」を日常の時間に溶きこませる学校像を提案するものである。

学校概要

松山聖陵高校は普通科および工業学科を併設する
私立高校であり約950名の生徒と約100名の教職員
が日常を共にする高校である。学科コースの異なる生徒が混在し、一般
教養から専門的な技術教育まで、多様な学びが同時に展開されている。
一方で学科・クラスごとに分節化されやすいという反面も残っている。
本計画ではこの規模と多様性を「管理すべき要素」ではなく「関係性を
生み出す可能性」として捉えている。約950名規模と複数学科が学校に
賑わいの可能性を与えている。本計画はその既存の枠組みを更新する
ことでその日常をより立体的に顕在化させることを目的としている。

学びの拠点の変化



① 段から傾斜



旧 動線としては成立するが、居場所としての余白がない。



新 全体を緩やかな傾斜にしており、高低差を意識せずに移動できる。

③ 校舎間の距離



旧 校舎間が近く、空間に広がりを感じにくい。



新 校舎間に広がりを持たせ余白を生み出した。

② 関係性の近接

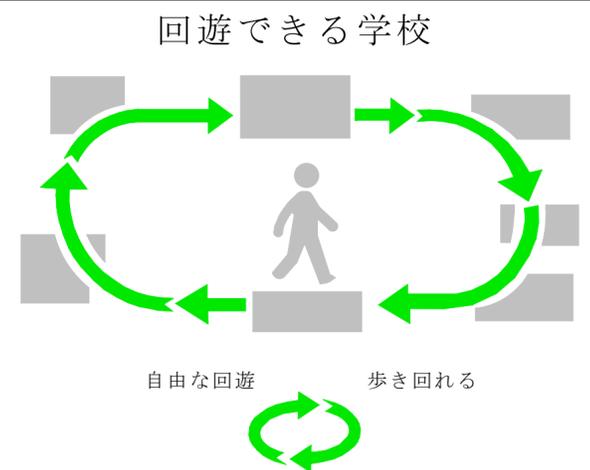
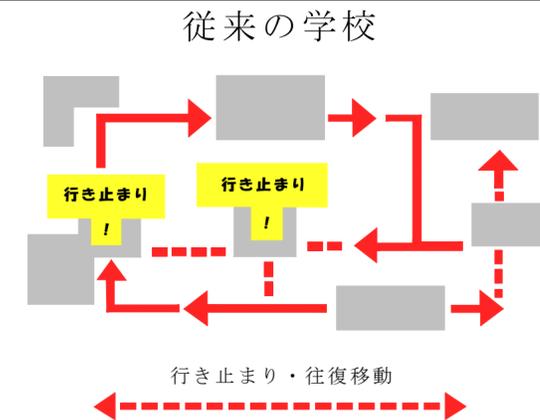


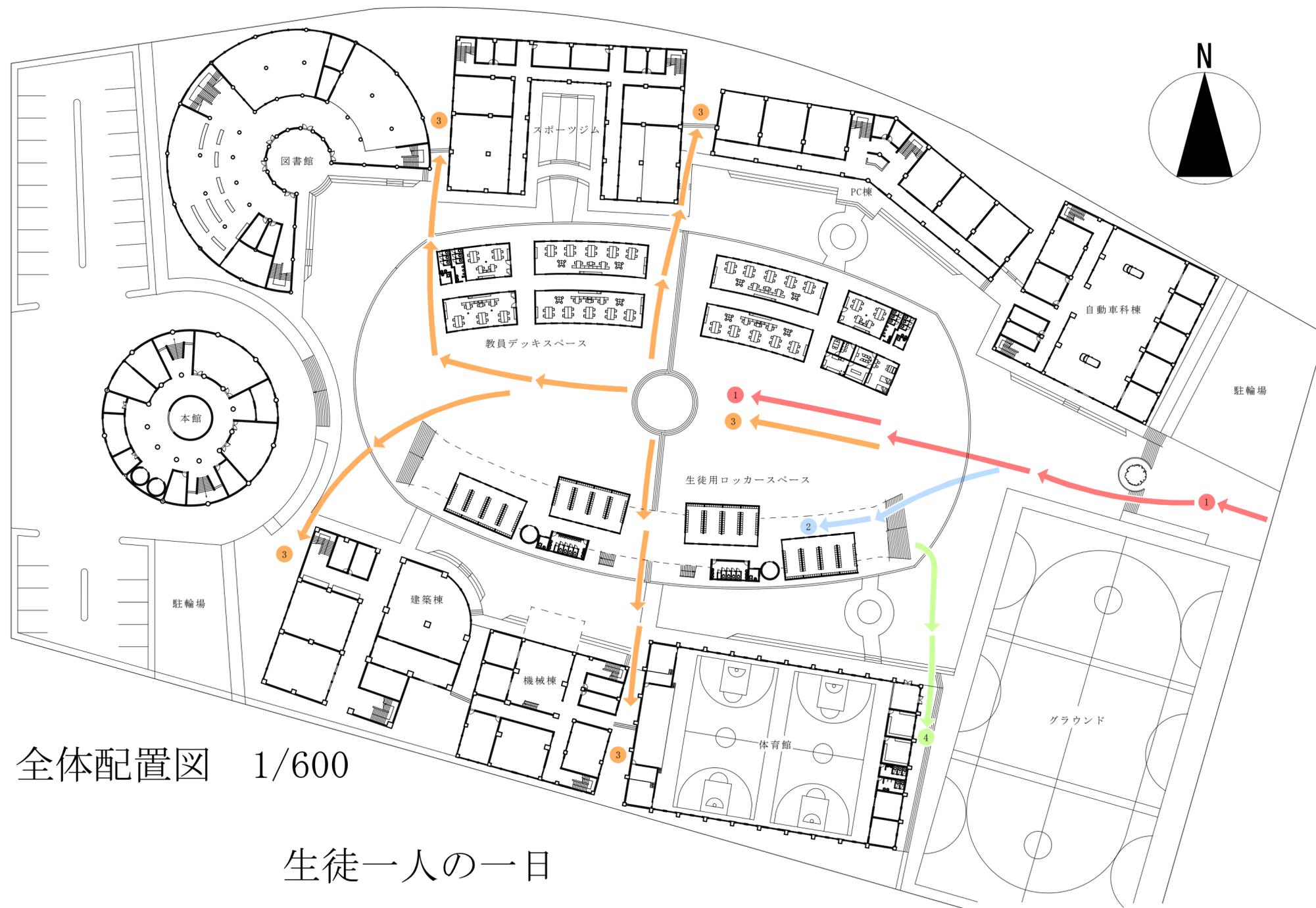
旧 教師と生徒の関係性が希薄になりやすい。



新 教師と生徒が対面し、距離の近い関係性が持てる。

④ まとめ





全体配置図 1/600

生徒一人の一日

従来の学校

HRクラスを拠点とする学習形態
クラス単位で完結し、活動が内向きになる

計画の転換

HRクラスの拠点概念を解体
移動教室を前提とした学校構成へ

新しい学校像

活動の中で学びが可視化
他学科の活動や活気が自然と伺える

1 登校時にて



登校時、校舎群が徐々に視界に現れ、人の動きや気配を通して学校全体の雰囲気が緩やかに立ち上がってくる。

朝のサンクンガーデンは登校直後の静けさの中で穏やかで落ち着いた雰囲気を作り出す。



2 朝の準備



ロッカー前では登校後の生徒が集まり、会話を交わしながら1日の始まりを共有している。

ロッカー内部では外の賑わいから替わり一人一人が身支度を整えるための静かな空間となっている。



3 休み時間にて



昼休みにはウッドデッキに生徒が自然と集まり、日差しの中で食事や会話を楽しむ。

建物の陰や奥まった配置には人目を避けて過ごせる隠れた場所も点在しており、安静な場となる。



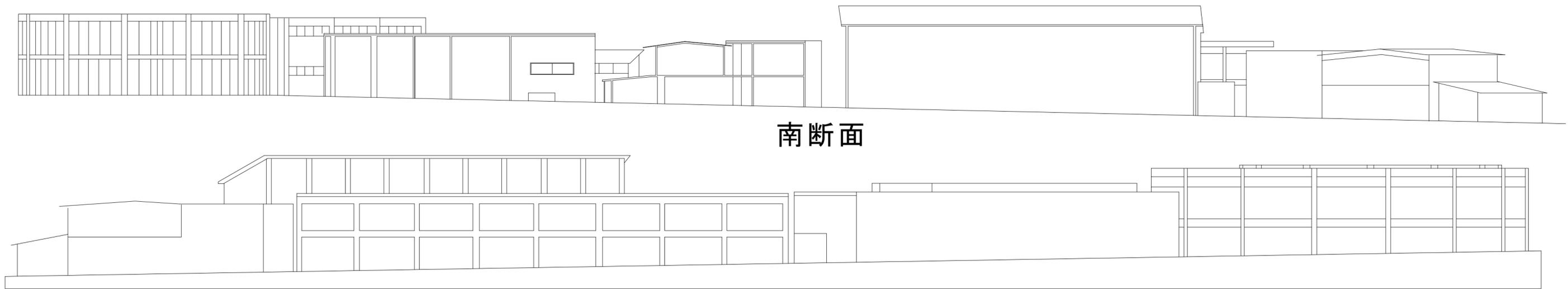
4 放課後にて



放課後にはデッキに腰を下ろしラグビーを観戦する生徒の姿が見られ、学校の日常が緩やかに続く。

5 まとめ

登校から授業、休み時間、放課後までの移動は単なる経路ではなく、他学科の活動や人の気配に触れる時間として連続している。こうした1日の流れが本校の象徴となる。



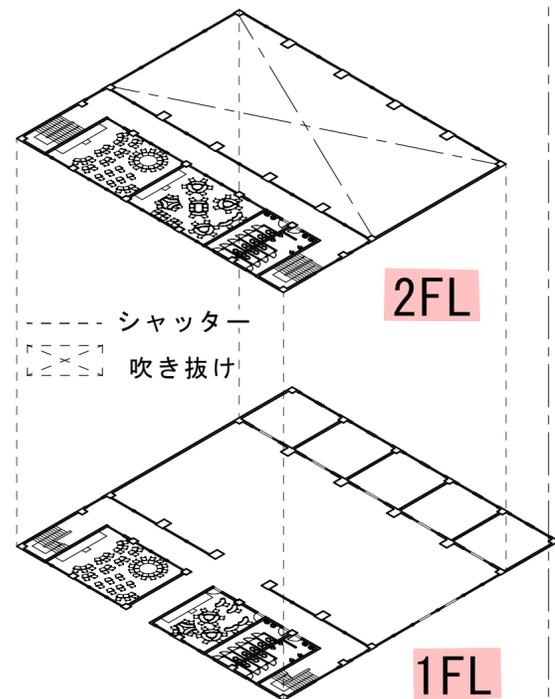
南断面

北立面図

自動車工学科棟



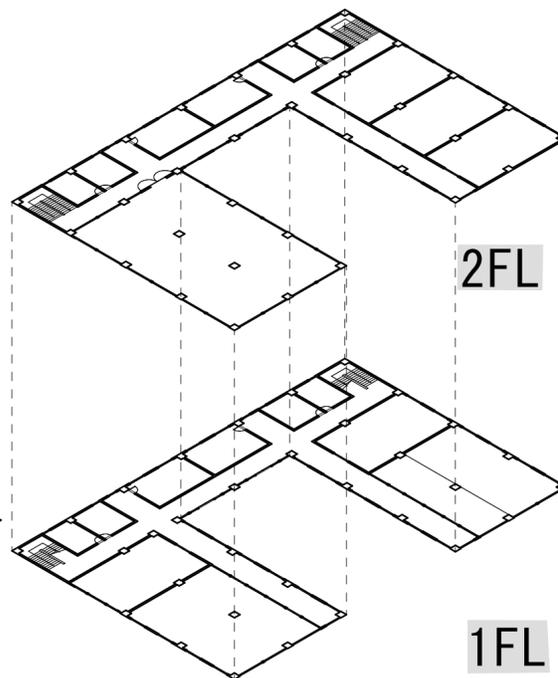
自動車工学科棟は車両設備やエンジン実習を通して自動車技術を実践的に学ぶ教棟で、活動が学校に活気を与えている。



スポーツジム



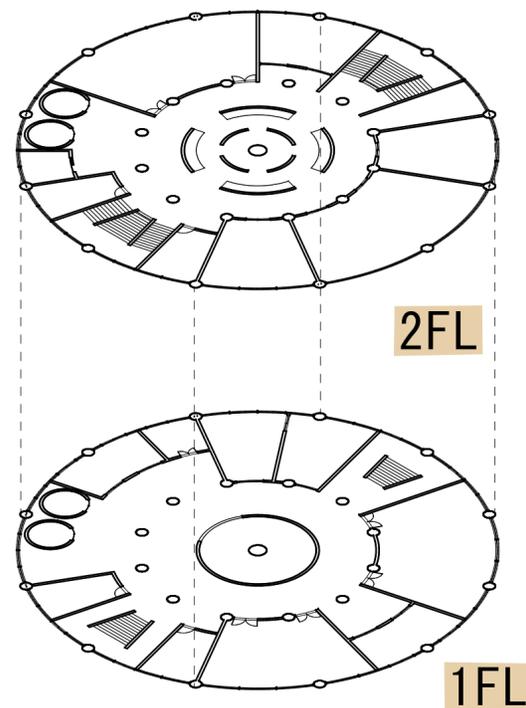
スポーツジムは授業から放課後まで幅広く使われ生徒が学年や学科を超えて集まる運動の拠点となる。



聖陵高校本館



本館は会議室や事務室など学校運営を担う機能を集約し教職員の活動を通して生徒の学びを支える拠点となっている。



建築科棟



建築科棟は製図や制作を通して、建築を学ぶ生徒の創造的な活動拠点であり、考えることと手を動かすことが日常的に行われる。



機械科棟



機械科棟は実習を中心とした学びを通して機械技術を身につけるための教育活動の拠点となっている。

